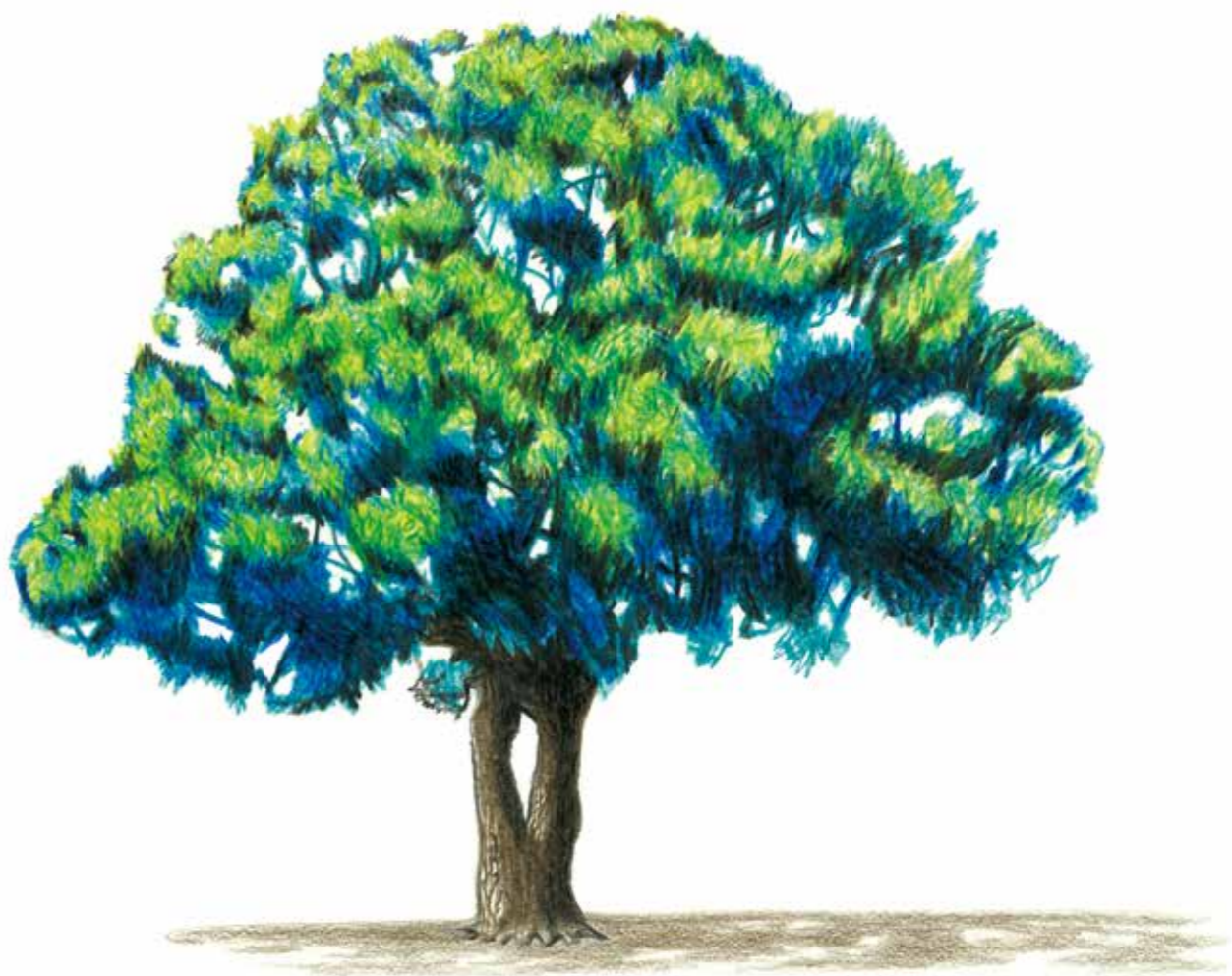


くすのきちゃん



くものきりん





「いたい！ せっかくいい気分^{きぶん}で寝^ねていたのに・・・」

「わたしの根^ねっこにひっかかったのは、

ああ、5年生^{ねんせい}のたかしさんか」

「大丈夫^{だいじょうぶ}かい？ ひざから血^ちが出^でているよ」



「え、だれ？」

たかしさんは驚いて、周りを見わたしました。

だけど、近くには誰もいません。

「おお、わたしの声が聞こえる子どもに会うのは

30年ぶりくらいかもしれないな」

くすのきはうれしくなり、もう一度、たかしさんに

声をかけました。

「ちょっと休んでいかないか？」

「どこ？ だれなの？」

声は、たかしさんの頭の上の方から聞こえてきます。

「わたしはくすのき。

西大村小学校の校庭で100年以上

みんなのようすを見ているのだよ。

たかしさんはサッカーの練習をがんばっているね」



「ほんとに？ くすのきさんの^{こえ}声なの？ すごい」

「ほんとうさ。^{ため}試しにわたしをくすぐってみてごらん」

「わかった。いくよ。こちょこちょこちょ〜」

「わーーーーはっ、はっ、はっ。

まいった、まいった。やめてくれ」

たかしさんはうれしくなり、くすのきにたずねました。

「ほんとに、いつも^{にしゅう}西小のみんなの^みことを見ているの？

くすのきさんは^{おお}大きいから、^{とお}遠くまで^み見えるんだろうね」

「そうだよ。いつもみんなの^みことを見ているよ」



^{ねんせい}2年生のなおさんは、^{さかあ}逆上がりの^{れんしゅう}練習をよくやっていたね。

^{なんど}何度も^{しばい}失敗していたけど、^{ともだち}お友達に^{おうえん}応援してもらって

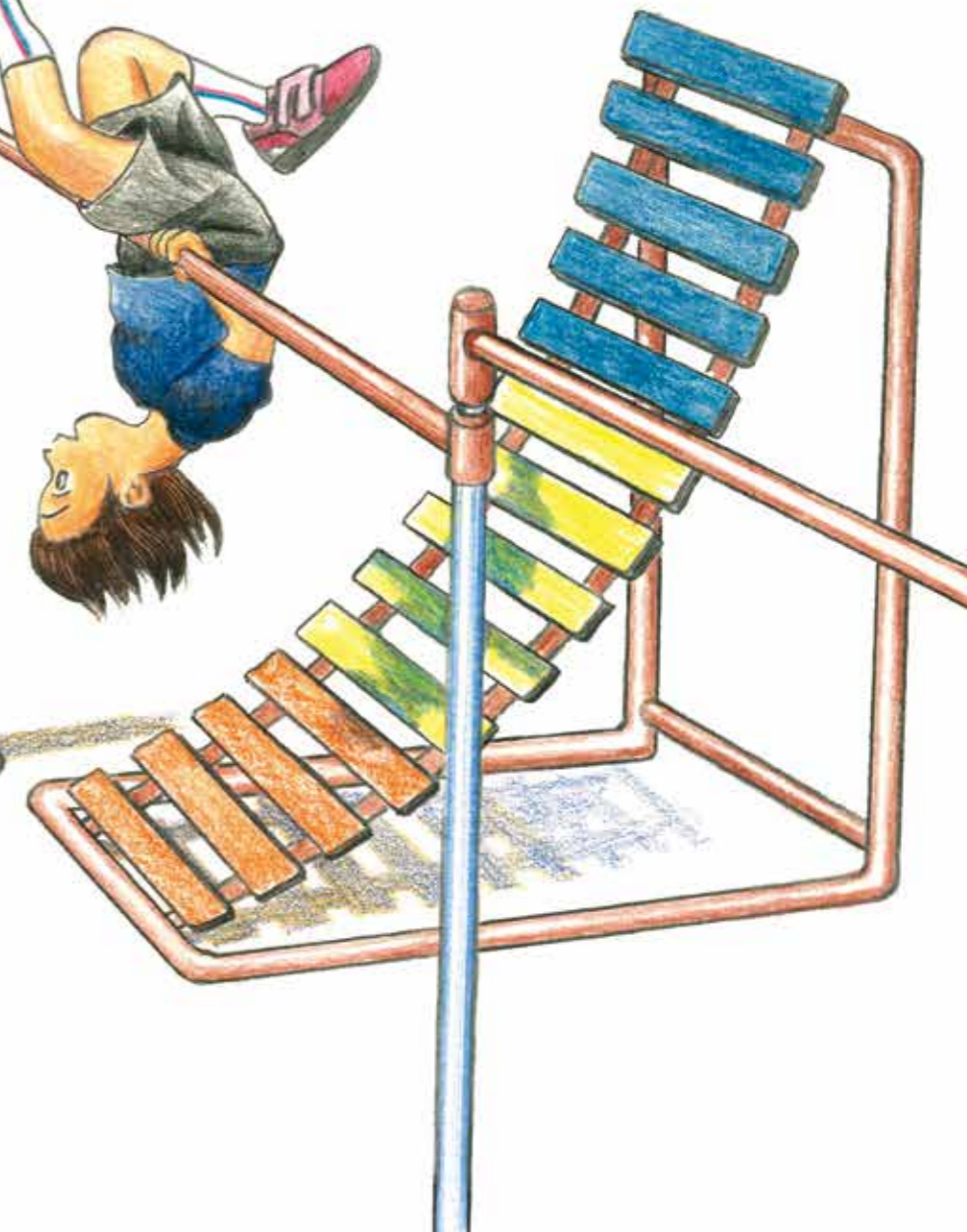
やっと^{せいこう}成功したときは、^{おも}思わず^{おも}ここから

「^{さけ}ナイス、ファイト！」と叫んだよ。

^{ねんせい}1年生のさきさんは、^{かあ}お母さんに^{おこ}怒られちゃったって
わたしの^{した}下にきて^な泣いていたよ。

そうしたら、^{ともだち}お友達の^きえみさんが来てやさしく
なぐさめてくれていた。

^{ともだち}いいお友達がいてよかった。

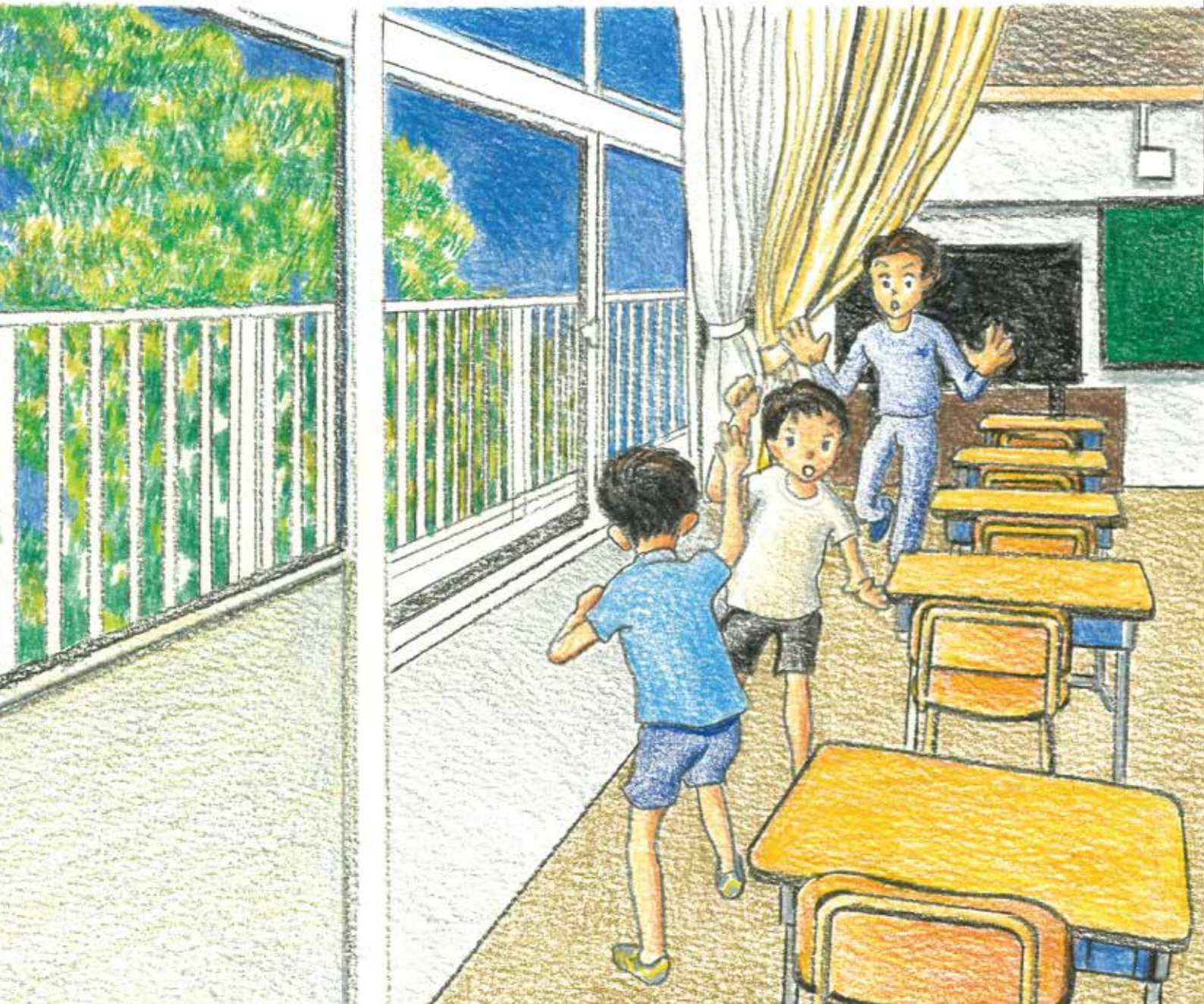


^{ねんせい}3年生のしょうたさんとえいじさんは、この間、けんかを
していたね。

そこへきよし先生^{せんせい}がやってきて、こんなお話^{はなし}をしていたよ。

「自分がされていやなことは、人^{ひと}にしない、言^いわない」

わたしも、そう思^{おも}うな。



^{ねんせい}4年生のみかさんは、運動会^{うんどうかい}の前日^{ぜんじつ}に雨^{あめ}が降^ふったとき

わたしのところにきて

「明日^{あした}、晴^はれにしてください」と、願^{ねが}いしていた。

そこで、わたしからもお天気^{てんき}の神様^{かみさま}に伝^{つた}えて、

は晴^はれにしてもらったんだ。

そして、6年生のみずほさんは、仲間と一緒に

わたしの落ち葉を、いつもきれいに掃除してくれていた。

おかげで、足元がすっきりして

とても気持ちよく過ごせているよ。

ところで、たかしさんのお母さんも

この小学校の卒業生だったよね。

たしか おつみさんという名前だったかな？



「え、お母^{かあ}さんを知^しっているの？」

「うん、よく覚^{おぼ}えているよ。きみのお母^{かあ}さんも

サッカーをやっていた。そして、

わたしの声^{こえ}が聞^きこえる子^こどもだったんだ」

「え——！ ほんとに？」

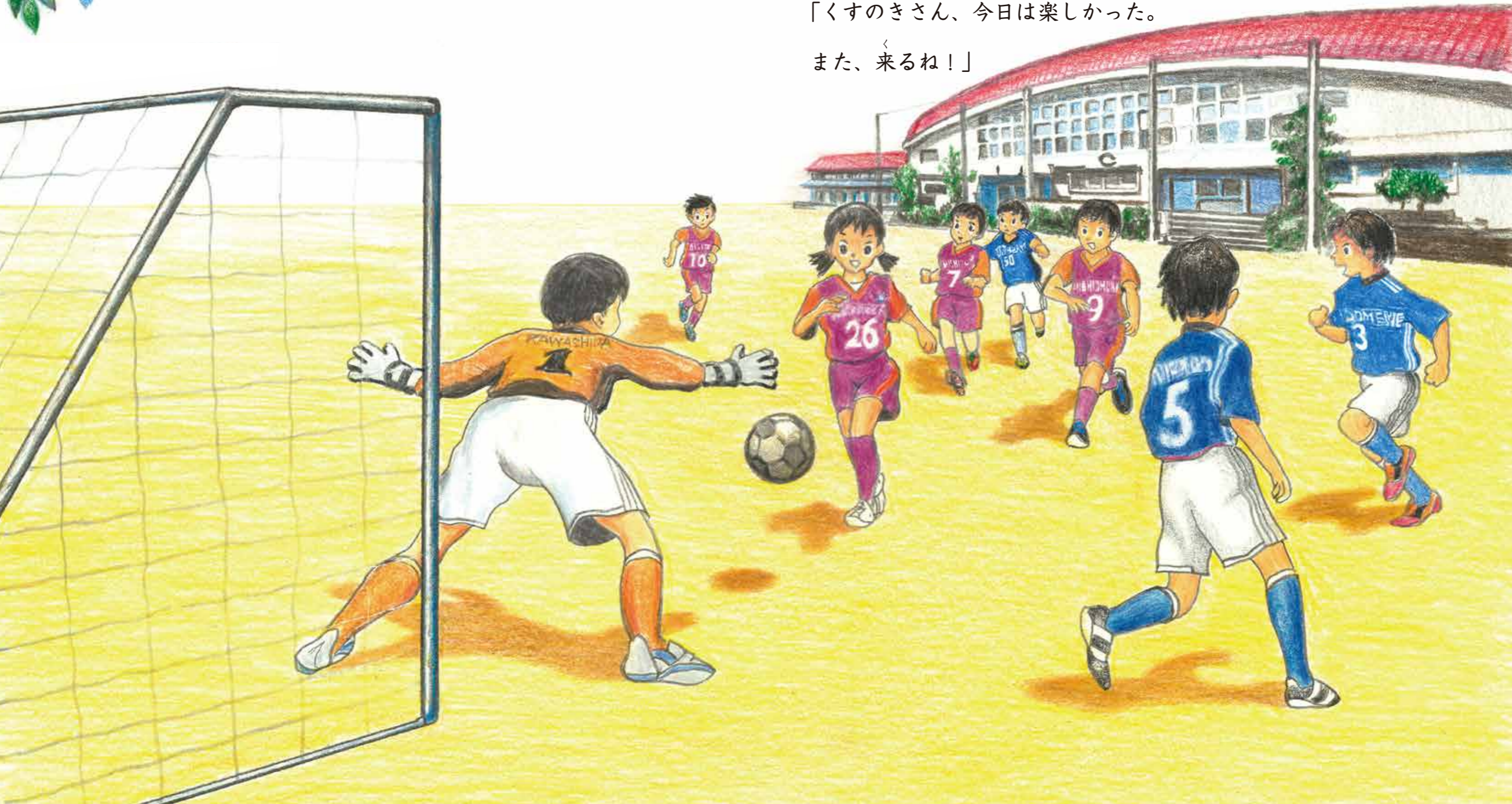
お母^{かあ}さん、何^{なに}も言^いってくれないから知^しらなかつた」

たかしさんは、おどろきました。

そして、すぐにお母^{かあ}さんにも、話^{はなし}を聞^きいてみたくなりました。

「くすのきさん、今^{きょう}日は楽^{たの}しかった。

また、来^くるね！」



たかしさんは、家に帰るなり

「お母さん、西小のくすのきさんと話せるってほんと？」

と、聞きました。

お母さんはびっくりした顔で言いました。

「どうして、そのことを知っているの？」

「実は、今日、ぼくもくすのきさんの声が聞こえたんだ。

お母さんは、くすのきさんとどんなお話をしたの？」

「あれはたしか、お母さんが

5年生だったころ・・・



サッカーでレギュラーだったのに

試合前の練習でケガをしてしまって

レギュラーを外されたことがあったの。

くやしくて、くやしくて、くすのきの下で泣いていたら

上の方から声が聞こえてきたわ。

『ケガは大丈夫かい？ 痛かったらう。』

今はくやしいだろうけど、ケガはきっと治る。

そこらからがんばれば、きっとまたレギュラーになれるさ。



わたしも去年、大きな病気にかかって
からだの半分ぐらいがくさってしまったんだ。

だけど、

木のお医者さんが病気を治してくれて、
元気になった。

病気やケガはつらいけど、きっと治るし
そこからやりなおせば、いくらでも取り返せるよ』

くすのきさんにそうはげまされて、

私は泣くのをやめたの。

そして、ケガが治ってから、練習をがんばって
またレギュラーになることができたのよ』



かあ はなし き
お母さんの話を聞いた たかしさんは、
もう一度、くすのきと話したくなりました。

よくじつ あさはや がっこう き
翌日、朝早くに学校へ来た たかしさんは
ランドセルを背負ったまま、まっすぐにくすのきの
ところへ行きました。

「くすのきさん、おはよう。
お母さんに聞いたよ。お母さんともおしゃべりした
んだね」

「たかしさん、おはよう。
お母さんはとてもがんばり屋さんだったよ」

じつ
「実はぼく、サッカーを辞めたいと思っ
ていて……。
ゴールキーパーの練習はつらいし、つまらなくて」

「そうだったんだね。よく話してくれたね。

わたしはサッカーのことは

よくわからないけれど、この間、監督が

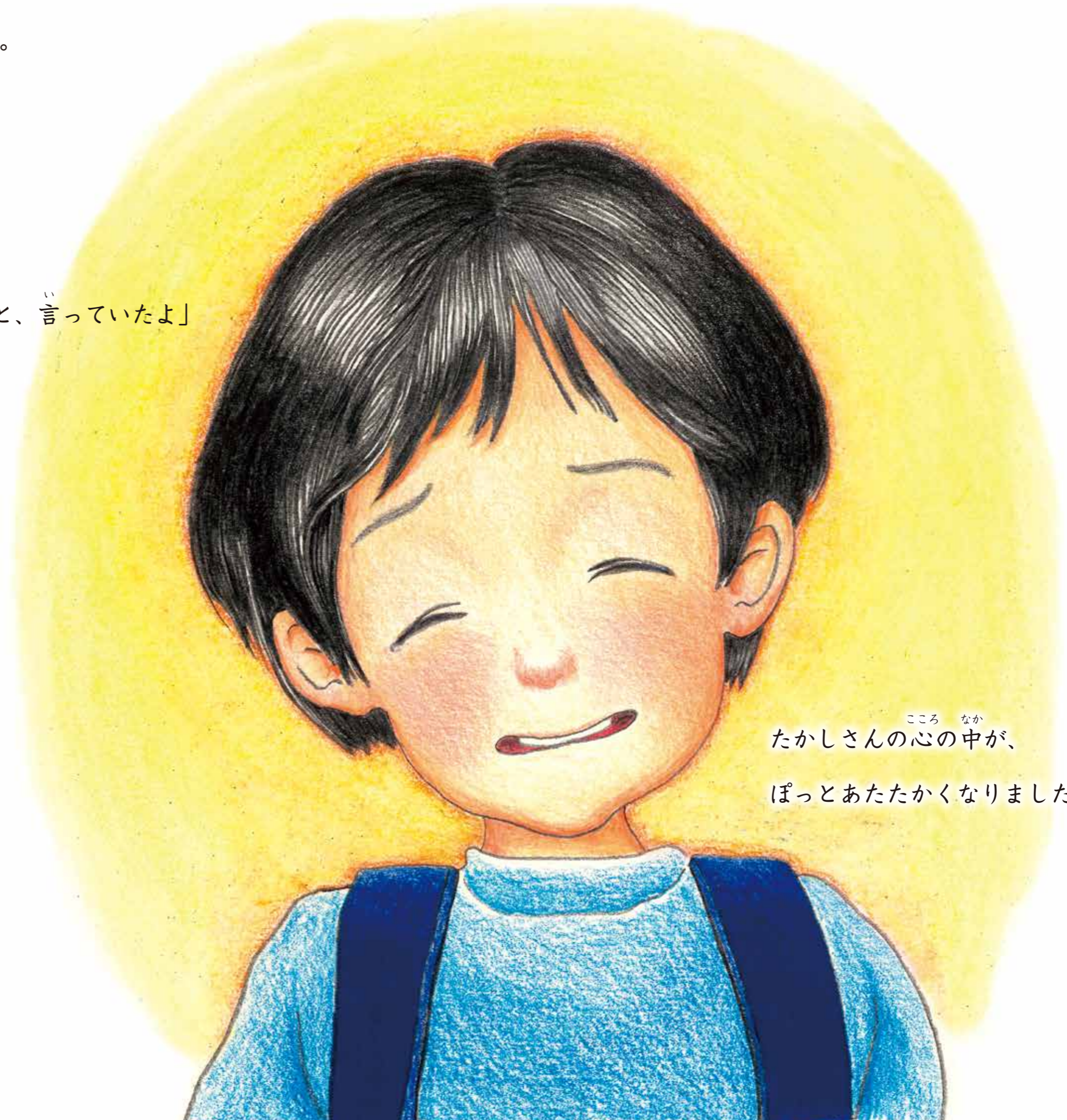
『たかしはキーパーのセンスがある。

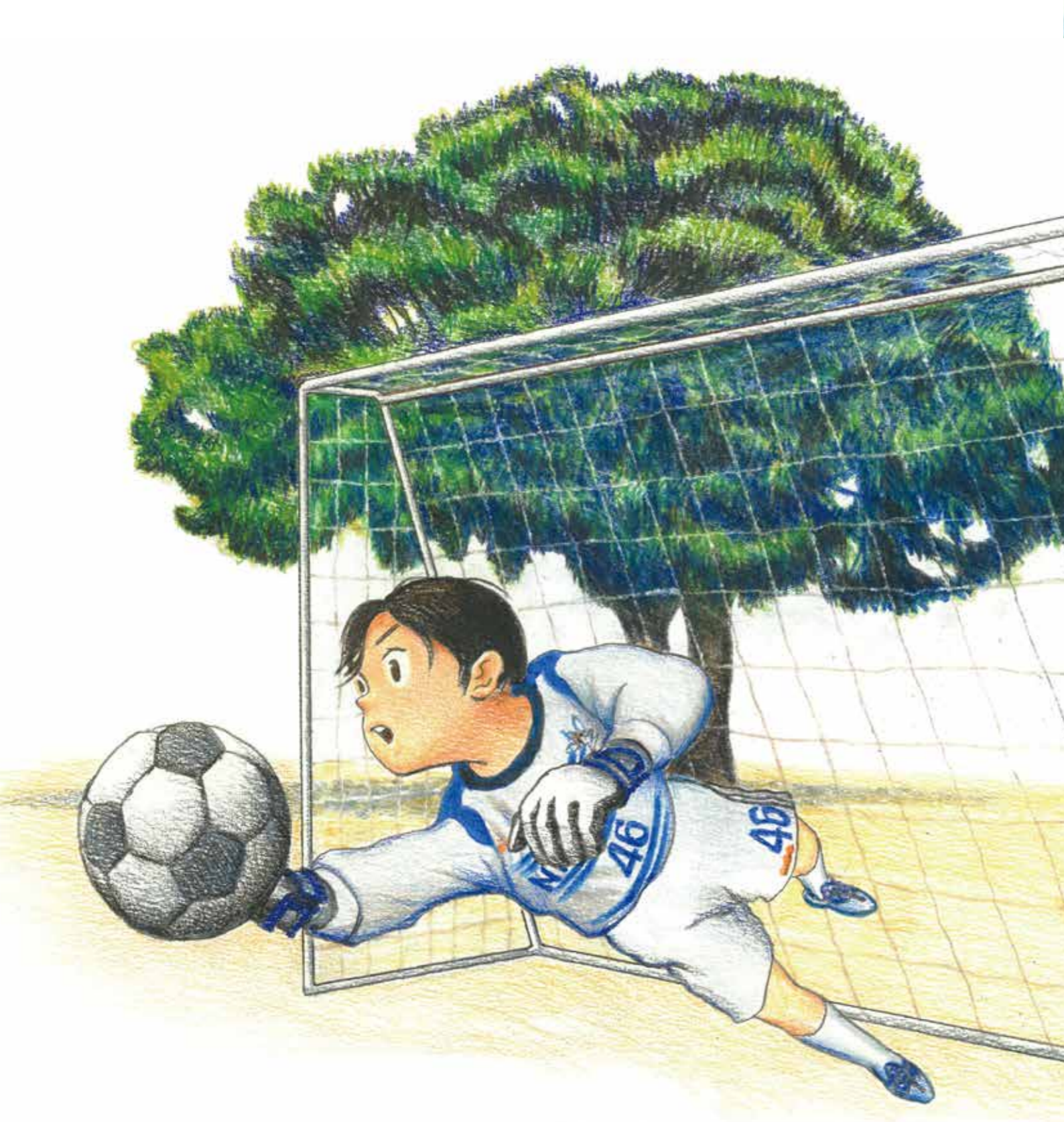
反応がよくて、頼りになる。

このチームになくてはならない存在だ』と、言っていたよ」

「監督がそんなことを言っていたんだ」

たかしの心の中が、
ぽっとあたたかくなりました。



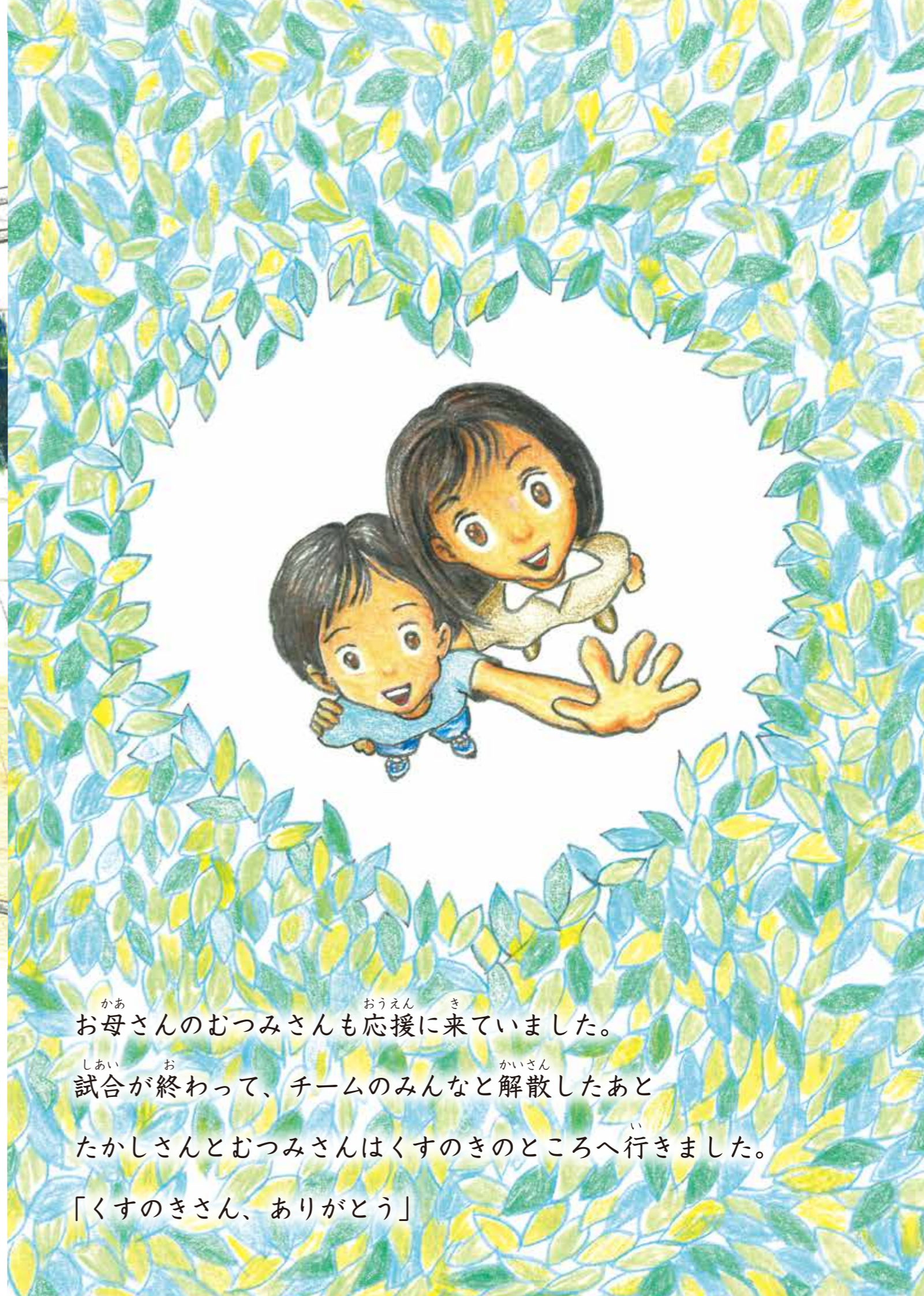


それから1か月後、^{げつご}西大村小学校の校庭で

サッカーの試合^{しあい}がありました。

たかしさんはゴールキーパーとして、相手チームのシュートを

何^{なんど}度もブロックし、大活躍^{だいかつやく}しました。



お母^{かあ}さんのむつみさんも応援^{おうえん}に来ていました。

試合^{しあい}が終わって、チームのみんなと解散^{かいさん}したあと

たかしさんとむつみさんはくすのきのところへ行き^いました。

「くすのきさん、ありがとう」




「これからも、ずっと、


見守^{みまも}っているからね」




西大村小学校150周年記念絵本 制作にあたって

この絵本は西大村小学校の保護者の有志が集まり制作しました。制作にあたり在校生、卒業生、保護者、地域の方にお声がけをして、西大村小学校のシンボル「くすのき」にまつわる思い出やエピソードを募集しました。そして、いただいたエピソードを参考にして物語を制作いたしました。ご協力ありがとうございました。

special thanks  福嶋良彦さん、藤原奏汰さん、こっこさん、
なばぎさん、ミッシーさん、きっしーさん、
キッシーさん

制作  西大村小学校150周年記念絵本制作実行委員会
西平千紘、溝田須賀子、堤美幸、小野由美子、村上智香、
竹口真史子、江頭恵子

絵  村上康夫
北海道留萌市生まれ。東京理科大学工学部卒。空調会社で設計の仕事に従事するも絵の世界への憧れを捨てきれず退職。
東京デザイナー学院でデザインを学び、広告会社でグラフィックデザイナーとして勤務する。
孫達を見守ってくれた西大村小学校のくすのきに感謝を込めて…

デザイン  うちだともこ

編集協力  江頭恵子



おわりに

今回、絵本プロジェクトに参加させて頂き、西小の歴史や卒業生の話を聞いていく中で、当たり前のようにランドにあるくすのきの存在の大きさに改めて気付きました。これからもみんなでくすのきを見守って歴史を刻みたいですね。この絵本を沢山の方に読んで頂けると嬉しいです。(村上智香)

娘の入学式の日、この大きなくすのきの下で、心も体も大きくなっていくのだろうな……とあたたかい気持ちになったことを覚えています。絵本プロジェクトのみなさんと話をする中で、各々西小とくすのきに対する思いがありました。きっと、この絵本を手にした子どもたち、ご家族にもそれぞれのストーリーがあると思います。この絵本をきっかけに、お子さんと学校での話やお父さんお母さんの小学校の時の話など、ご家族で会話を楽しんでもらえたらと思います。(溝田須賀子)

まずは、『くすのきさん』の絵本作りに携われたことを大変嬉しく思います。制作を進める中でくすのきにまつわるいろんなエピソードを知り、くすのきと西小の歴史の深さを改めて感じる機会にもなりました。西小のくすのきのように、あたり前にいて寄り添ってくれる存在というのは子どもの時だけでなく、大人になっても心の支えになるものだと思います。是非、たくさんの方にそれぞれの思い出をよみがえらせながら、この絵本を読んでいただきたいです。(小野由美子)

昼休みには子ども達が周りで遊び、暑い日には木陰がちょうど良い休憩所に。運動会のリレーでは、くすのきのカーブで追い越すか越さないかの白熱した戦いがくり広げられる。子ども達の成長を振り返るとくすのきがいっしょに一緒にいてくれました。お寄せいただいたエピソードもくすのきとの温かい思い出や世代をつなぐものが多くありました。この絵本が世代をこえた交流のきっかけになると嬉しいです。(西平千紘)

私自身、そして子どもたちも西小出身。絵本制作に携わらせていただく中で、こんなことあった！と思い出したり、互いのエピソードを語り合ったりしてとても楽しかったです。西小のシンボルとしてすぐ思い浮かぶくすのき。各ご家庭にもたくさん素敵な思い出があると思います。皆さんの思い出の話の一部にこの絵本があればいいなと思います。(堤美幸)

150周年絵本制作に参加させていただき、大変嬉しく思います。絵本の内容を検討するなかで、お母さんご自身やお子さんたちのくすのきにまつわる話をたくさん伺い、西小の子どもたちはいつも「くすのき」に見守られているのだなと感じました。絵本に登場する人物名はすべて仮名ですが、実は2023年現在の職員の名前にしました。どの先生の名前が入っているか見つけてみてください。(職員 江頭恵子)



くすのきさん

2023年11月14日 初版第一刷発行
文／西大村小学校150周年記念絵本制作実行委員会
絵／村上康夫
発行所／西大村小学校150周年記念絵本制作実行委員会

大村市立西大村小学校
〒856-0823 長崎県大村市乾馬場町 486
TEL 0957-53-2670 FAX 0957-53-2671

印刷／株式会社 つじ印刷
製本／日宝綜合製本株式会社

無断で複写（コピー）・複製・転載および電子データ化を禁じます。
複写等を希望される場合は、西大村小学校にご連絡ください。



大村市立西大村小学校150周年記念絵本